

# 女島付近の年間平均海面水温からみた海の変化

～ 昔の海と今の海とは違う？ ～

長崎県総合水産試験場 漁業資源部 海洋資源科

## はじめに

私たちが調査や学習会などで浜に行った折に、「近年は魚が獲れる時期や獲れる魚種について、昔の経験があまりあてにならなくなってきた」といったお話をたびたび耳にします。

『漁期がずれてきた、獲れる魚の種類が変化している、思いがけない時期にまとまって獲れる』など、最近では長年の経験則が当てはまりにくくなっているようです。[漁獲パターン]の変化は長年漁業に携わっている方たち、つまりは「プロ中のプロ」達ほど強く感じている印象を受けます。

このような【漁獲状況の変動（漁況）】の変化を知る上で、特に水温など海の環境の変化（海況）は重要な要素と考えられます。

今回は、この海の環境の変化を、水温データを用いて検討しました。

過去にさかのぼって水温の変化を検討するためには長期間のデータが必要となります。

本県周辺の長期間のデータとして、海上保安庁海洋情報部が女島（図1）で観測した1955年から2011年までの旬ごとの海面水温があります。観測が終了した2006年9月以降は総合水産試験場で水温データを補完し、図2に年間平均水温に、見やすくするための統計処理を施したグラフを示しました。

## 女島周辺の海面水温

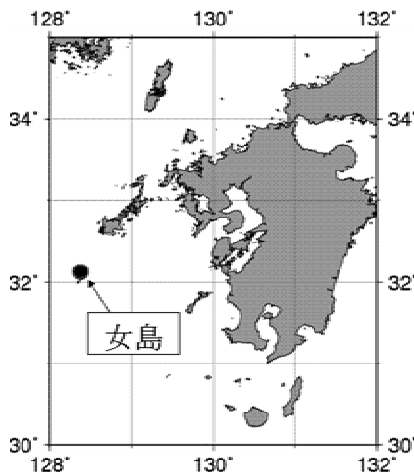


図1：女島の位置

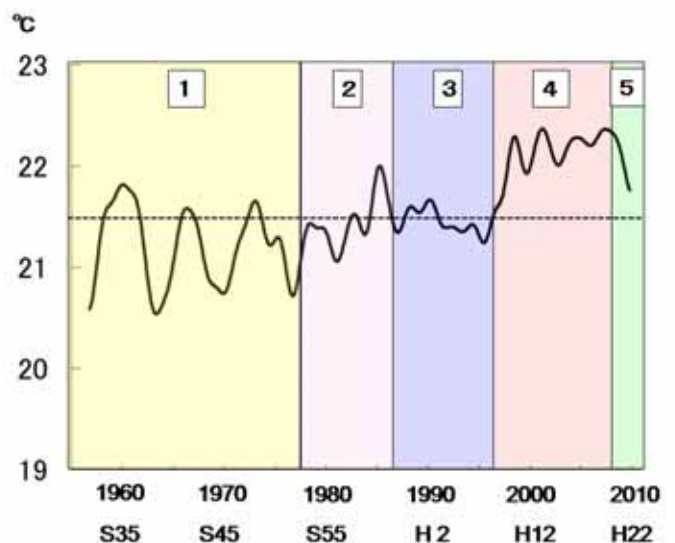


図2 女島付近海面水温の経年変化  
(点線は平年値)

## 水温の長期的な変化

グラフを見ますと水温の変化は単調ではなく、数年以上の間隔で長期的に変化している様子が分かります。

このことを期間ごとに整理すると表1のようになります。なお表中の各期間は図2中の1～5と記した期間に相当します。また周期とは水温の定期的な変化、変動とは水温の上昇、下降の状況を示します。

周期については1950年代から1970年代後半にかけて約7年の周期で温かくなったり冷たくなったりしていますが、1980年代に入ると、その周期が短くなり、更に1980年代後半からは周期性が不明瞭になっている様子がわかります。

一方、変動についても期間による違いがみられ、例えば1980年代後半から1990年代には水温は緩やかに下降しているものの、1990年代後半から2000年代には水温は急激に上昇し、その後高水温で安定しています。

また2009年以降水温は急激に下降し最近年は平均値付近で安定しています。

このような水温の長期的な変化は、「今の海の状況は昔の海と同じものとは限らないよ」ということを物語っているようです。近年、浜の皆様が経験が当てはまりにくくなっていることもうなずけます。

なお、海面の水温の変化は、気温など気象の変化に強く影響されます。このため今後の

海の変化を知る上で気象の変動も気になるところです。現在、地球温暖化説がある一方で、太陽活動の減少に伴う小氷河期説もあり、将来の気象変動をきちんと予測することもなかなか難しいことのように思われます。

### おわりに

このような状況に対応するためには、最新の情報を随時取り入れ、経験則と重ね合わせるにより今までの考えを修正していくことが必要です。長崎県総合水産試験場では、漁況や海況を把握し「漁海況週報」、「漁海況通信」、「九州水温日報」をホームページなどで発信しています。ぜひ、ご参考にしてください。

(担当 高木信夫)

表1:女島付近海面水温の変化

期 間	周 期	変 動
1 1950年代～1970年代末	7年周期	
2 1970年代末～1980年代半ば	数年周期	緩やかな上昇
3 1980年代半ば～1990年代半ば	周期性が不明瞭	緩やかな下降
4 1990年代半ば～2000年代末	周期性が不明瞭	急激な上昇後高水温で安定
5 2000年代末～	周期性が不明瞭	急激な減少後平年値で安定